



アドマイヤー[®] フロアブル

防除回数軽減・主要害虫に、
幅広い適用作物と優れた残効性。

- かんきつのアブラムシ類、ハモグリガ、スリップス、野菜のアブラムシ類、花きのアブラムシ類・コナジラミ類などを長期間防除します。
- 優れた残効性により、防除回数を減らすことができ省力防除が可能です。
- 登録作物も多く、フロアブルタイプなので薬液の汚れも少ない使いやすい薬剤です。



アカマルカイガラムシ



タバココナジラミ



ワタアブラムシ



ミカンハモグリガ



写真提供 愛媛県果樹研究センター
チャノキイロアザミウマ

250ml入



100ml入



適用害虫および使用方法

作物名	適用害虫名	希釈倍数(倍)	10アール当り使用液量(ℓ)	使用時期*	使用回数*		使用方法
					本剤	イミダクロプリド	
かんきつ	コナカイガラムシ類	2000-2500	200~700	14日	3回	3回	散布
	アカマルカイガラムシ	2000-5000					
	アザミウマ類						
	ケシキスイ類						
	コアオハナムグリ						
	ミカンハモグリガ						
	カメムシ類						
	アブラムシ類						
	ゴマダラカミキリ成虫						
	ミカンバエ						
びわ	アブラムシ類		2,000	200~700	7日	3回	3回
	カメムシ類						
	アブラムシ類						
	モモハモグリガ						
ななし	アブラムシ類	5,000	200~700	7日	2回	散布	
	アブラムシ類						
	アザミウマ類						
	カメムシ類						
	キウイフルーツ						
	いちよう(種子)						
	アセロラ						
	ピタヤ						
	とうもろこし						
	ヤングコーン						
アマランサス(莖葉)							
キノア	カメノコハムシ	2,000	100~300	7日	3回(種子粉衣は1回、は種後は2回)	無人航空機による散布	
	アブラムシ類						
	アブラムシ類						
	アザミウマ類						
	カメムシ類						
	イチョウヒゲロウカミキリ成虫						
	アセロラ						
	ピタヤ						
	とうもろこし						
	ヤングコーン						
キャベツ	アブラムシ類	4,000	100~300	7日	2回	散布	
	アブラムシ類						
	アブラムシ類						
	アザミウマ類						
	カメムシ類						
	イチョウヒゲロウカミキリ成虫						
	アセロラ						
	ピタヤ						
	とうもろこし						
	ヤングコーン						
はくさい	アブラムシ類	2,000	100~300	7日	3回	散布	
	アブラムシ類						
	アブラムシ類						
	アザミウマ類						
	カメムシ類						
	イチョウヒゲロウカミキリ成虫						
	アセロラ						
	ピタヤ						
	とうもろこし						
	ヤングコーン						
ほうれんそう	アブラムシ類	200	100~300	7日	2回	散布	
	アザミウマ類						
	ウリハムシモドキ						
	アブラムシ類						
	アブラムシ類						
	アザミウマ類						
	ウリハムシモドキ						
	アブラムシ類						
	アザミウマ類						
	ウリハムシモドキ						
たまねぎ	アザミウマ類	200	100~300	7日	2回	散布	
	アザミウマ類						
	ウリハムシモドキ						
	アブラムシ類						
	アザミウマ類						
	ウリハムシモドキ						
	アブラムシ類						
	アザミウマ類						
	ウリハムシモドキ						
	アブラムシ類						

2020年1月現在の登録内容

作物名	適用害虫名	希釈倍数(倍)	10アール当り使用液量(ℓ)	使用時期*	使用回数*		使用方法
					本剤	イミダクロプリド	
ねぎ	アザミウマ類	2000-4000	100-300	14日	2回	2回	散布
	ネギハモグリバエ	200	セル成型育苗トレイ(播種後はペーパー厚1mm(30×60cm、使用土量 約1.5~4ℓ) 当0.5ℓ)	定植前日~定植時	1回	3回(定植時までの処理は1回、散布は2回)	灌注
わげぎ	アザミウマ類	2000-4000	2,000	3日	2回	3回(定植時の土壌混和は1回、散布は2回)	散布
	アザミウマ類	2,000		14日	1回	1回	
れんこん	アブラムシ類	4,000	2,000	21日	3回	3回	散布
	アブラムシ類	4,000		14日	2回	3回(定植時の土壌混和は1回、定植後は2回)	
うど	アブラムシ類	2,000	2,000	7日	1回	1回	散布
	アブラムシ類	2,000		14日	1回	2回(定植時までの処理は1回、散布は1回)	
きゅうり	アブラムシ類	4,000	100-300	前日	3回	4回(育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回、散布及び常温燻蒸は合計3回)	散布
	アブラムシ類			3日	3回	4回(育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回、散布は3回)	
メロン	アブラムシ類	4,000	100-300	前日	2回	3回(定植時の土壌混和は1回、散布は2回)	散布
	アブラムシ類			3日	3回	4回(定植時の土壌混和は1回、散布は3回)	
かぼちゃ	アブラムシ類	4,000	100-300	前日	2回	3回(定植時の土壌混和は1回、散布は2回)	散布
	アブラムシ類			3日	3回	4回(定植時の土壌混和は1回、散布は3回)	
なす	アブラムシ類	4,000	100-300	前日	2回	3回(定植時の土壌混和は1回、散布は2回)	散布
	アザミウマ類			3日	3回	4回(定植時の土壌混和は1回、散布は3回)	
オクラ	アブラムシ類	4,000	100-300	前日	2回	3回(定植時の土壌混和は1回、散布は2回)	散布
	アザミウマ類			3日	3回	4回(定植時の土壌混和は1回、散布は3回)	
しそ	アブラムシ類	4,000	100-300	前日	2回	3回(定植時の土壌混和は1回、散布は2回)	散布
	アザミウマ類			3日	3回	4回(定植時の土壌混和は1回、散布は3回)	
ふき	アブラムシ類	4,000	100-300	前日	2回	3回(定植時の土壌混和は1回、散布は2回)	散布
	アザミウマ類			3日	3回	4回(定植時の土壌混和は1回、散布は3回)	
アスパラガス	アザミウマ類	2,000	100-300	前日	2回	3回(定植時の土壌混和は1回、散布は2回)	散布
	アザミウマ類			3日	3回	4回(定植時の土壌混和は1回、散布は3回)	
未成熟そらめめ	アブラムシ類	4,000	100-300	前日	2回	3回(定植時の土壌混和は1回、散布は2回)	散布
	アザミウマ類			3日	3回	4回(定植時の土壌混和は1回、散布は3回)	
未成熟さざげ	アブラムシ類	4,000	100-300	前日	2回	3回(定植時の土壌混和は1回、散布は2回)	散布
	アザミウマ類			3日	3回	4回(定植時の土壌混和は1回、散布は3回)	
はまぼうふ(葉)	アザミウマ類	4,000	100-300	前日	2回	3回(定植時の土壌混和は1回、散布は2回)	散布
	アザミウマ類			3日	3回	4回(定植時の土壌混和は1回、散布は3回)	
食用プリムラ	アザミウマ類	4,000	100-300	前日	2回	3回(定植時の土壌混和は1回、散布は2回)	散布
	アザミウマ類			3日	3回	4回(定植時の土壌混和は1回、散布は3回)	
食用さくら(葉)	アザミウマ類	4,000	100-300	前日	2回	3回(定植時の土壌混和は1回、散布は2回)	散布
	アザミウマ類			3日	3回	4回(定植時の土壌混和は1回、散布は3回)	
食用かえで(葉)	アザミウマ類	4,000	100-300	前日	2回	3回(定植時の土壌混和は1回、散布は2回)	散布
	アザミウマ類			3日	3回	4回(定植時の土壌混和は1回、散布は3回)	
食用ぎく	アザミウマ類	4,000	100-300	前日	2回	3回(定植時の土壌混和は1回、散布は2回)	散布
	アザミウマ類			3日	3回	4回(定植時の土壌混和は1回、散布は3回)	
花さく類(観葉植物(さくを除く))	アブラムシ類	2,000	100-200	発生初期	5回	5回	散布
	アブラムシ類			5回	5回		
ポインセチア	アブラムシ類	2,000	100-200	発生初期	5回	5回	散布
	アブラムシ類			5回	5回		
つつじ類	ツツジグンバイ	5,000	1ℓ/㎡	発生前	2回	5回(株元注は2回、土壌混和は2回)	株元注
	ツツジグンバイ			2回	2回		
かえで	モジズミクアブラムシ	2,000	200-700	発生初期	2回	2回	散布
	モジズミクアブラムシ			2回	2回		

*印は収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫前日数と、本剤およびその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示します。

注意事項

- 本剤は振ってから使用して下さい。
- 使用量に合わせた薬液を調整し、使いきって下さい。
- 畜に対して長期間毒性がありますので、絶対に養蚕にかけられないようにして下さい。
- ミツバチに対して影響がありますので、以下のことに注意して下さい。
 - ミツバチの巣箱およびその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないで下さい。
 - 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用を避けて下さい。
 - 関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めて下さい。
- 散布量は対象作物の生育段階、栽培形態および散布方法に合わせ調整して下さい。
- 道路、公園等で使用する場合には、河川および湖沼等に散布液が飛散しないよう注意して下さい。
- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は次の注意事項を守って下さい。
 - ミツバチに対して影響がありますので、関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めて下さい。
 - 散布は散布機種の散布基準に従って実施して下さい。
 - 散布に当たっては散布機種に適合した散布装置を使用して下さい。
 - 散布中、薬液の漏れのないように機体の散布装置の十分な点検を行って下さい。
 - 散布薬液の飛散によって動物の被害や自動車の塗装等に被害を与えるおそれがあるなど、各分野に影響がありますので、

- 散布区域内の諸物件に十分留意して下さい。
 - 水源地、飲料用水等に本剤が飛散・流入しないように十分注意して下さい。
 - 散布終了後は次の項目を守って下さい。
 - ①使用後の散布容器は放置せず、安全な場所に廃棄して下さい。
 - ②機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理して下さい。
- 本剤を使用したわさびの苗を畑地からわさび田に移植する場合には、使用した農薬がわさび田の水系に持ち込まれないよう、わさびの苗に付着した土を十分に洗い落して下さい。
- 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に業者の有無を十分確認してから使用して下さい。なお、病害虫防除等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 医薬用外劇物なので、取扱いには十分注意して下さい。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の指導を受けさせて下さい。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の指導を受けさせて下さい。
- 本剤は眼に対して強い刺激性がありますので眼にこぼさないよう注意して下さい。眼に入った場合には直ちに水洗して下さい。
- 散布の際は防護マスク、手袋、不透水性防除衣などを着用して下さい。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをして下さい。
- 道路、公園等で使用する場合は、散布中および散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意して下さい。

●使用前にはラベルをよく読んで下さい。 ●ラベルの記載以外には使用しないで下さい。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。

バイエル クロップサイエンス株式会社

東京都千代田区丸の内1-6-5 〒100-8262 <https://crops.cscience.bayer.jp/>

お客様相談室 ☎0120-575-078 9:00~12:00、13:00~17:00 土・日・祝日を除く